

五期俳句会第百六十九回九月一日

珍しく体調が悪く本当は休みたかったが、役割を考えて出かける。
食欲もあまりない。

秋立ちて老人ホームへ行く決意

今井由紀子

街路地に蟬の軀の哀れかな

塩田豆子

幾山河越えはや八十一の秋

久貝貞子

摺り足で歩む卒寿に尾花ゆれ

今井由紀子

神苑に法師蟬鳴く静かかな

松浦武子

盧舎那仏暑気払いたる御身拭い

塩田豆子

迎え火も送り火もせぬ宗旨なる

浅香さとみ

いつからか季節変わりて虫の声

久貝貞子

三杯酢口すぼめたる心太

塩田豆子

他愛なくいねむる姿車内秋

久貝貞子

糠床に水茄子つけて今日も暮れ

久貝貞子

新涼や金剛山頂青深し

今井由紀子

もさもさと躰を搔いて八月尽

浅香さとみ

野歩きや水引草の花穂伸び

松浦武子

平和像夏空を指し戒める

塩田豆子

思い出は咲きてこぼれて萩の花

今井由紀子

玉音を聴きしあの夏今遙か

塩田豆子

はらはらと風がこぼせし白き萩

松浦武子

いつまで暑いのだろう、たいがい丈夫なはずの私がダウンした、
替りが欲しい心境。ま 頑張りますので、宜しく！